



鹿児島 与論島
Kagoshima Yoronjima

これは、普通の旅とはちょっとちがう、
新しい自分と世界に出会う旅。

旅の途中で誰かのお手伝いをしたり、
その土地の課題と向き合ったり。
自由時間は、仲間と自然と、思いっきり遊んでみる。

課題を知ったから、その土地をもっと好きになる。
出会ったばかりの仲間だから、素直に話せることがある。

思わぬトラブルだって、
きっと忘れられない思い出になるから。

キミも、日本のどこかの仲間と一緒に
ちょっと世界を変えちゃう冒険にでかけませんか？



鹿児島島 与論島

Kagoshima Yoronjima

海と生きる

楽園の島を

まもる旅.

エメラルドグリーン美しい海の与論島。

海ごみの問題が世界中で叫ばれている

今ですが、与論の海は、島の人々の工夫によって守られています。

砂浜には「拾い箱」と呼ばれる箱が置いてあり、砂浜に遊びに来た人たちが落ちていたゴミを拾い集める「人が来れば来るほど、綺麗になる砂浜」を目指しています。

360度海に囲まれた島で、8人の学生が参加しました。



与論島レポート

2022.09.06-09.09

旅する
ボランティア



台風11号が過ぎた翌日、8人の旅がはじまった。最年長は25歳、最年少は18歳。年齢も住んでいる場所も違うメンバーは、緊張ぎみに様子をうかがっていた。



いつもと違う環境の中で馴染めるだろうか。初めてのボランティア、うまくできるかな。いったい、どんな旅がはじまるのだろう。

前日までの台風の影響で、機体は揺れる。
これまでの自分をも脱ぎ捨てるように、
強風に吹かれて、別世界へと飛び立った。





雨予報は外れ、与論島は太陽と共に私たちを迎え入れてくれた。

与論島1周エコツアー。電動キックボードと電動自転車で島をぐるりと駆けぬげる。こんにちは、と声をかけると島の人々は笑顔で返してくれる。与論島では島人みなが、観光大使だ。





ウミガメの卵を守るために
日付を書いた棒が立てられている

「29度」これはウミガメにとって重要な数字。砂浜の温度が29度以上だとメスが、それより下だとオスが生まれる。しかし近年、環境汚染によって気温が上がりメスばかり産まれるようになってしまっているそう。

見落としてしまいそうなところにも、こんな話を教えていただき、島の人たちが海と共に暮らしていることを改めて実感する。



丘の上まで登ると、目の前には360度の海と同世代の仲間たち。大学に入学しても画面を見つめる時間ばかりが増えていった日々の中で、この景色はあまりに新鮮だった。



5時の鐘が鳴ると聞こえてくる与論島方言の放送。
聞き取れたメンバーはいなかったけど、
「とーとうがなし（ありがとう）」だけは
しっかり覚えて、1日目のプログラムを終えた。





朝6時。ビーチクリーンから1日が始まる。
昨夜語り明かし、8人の輪は少しだけ小さくなっていた。
小道を抜けると、朝日に照らされた与論島の海が広がる。
この景色は早起きしたご褒美だ。

よく見てみると、綺麗な砂浜にも様々なゴミが流れ着いていた。外国のラベルが巻かれたペットボトルは海流を世界一周して流れ着いたものもあるそう。粉々になった発泡スチロールは砂に混ざったり、岩の間に入り込んでとても拾いにくかった。





環境問題はちょっと遠い存在だった。だけど実際にやってみることで、普段使っているモノや生活の見方が全然違ってみえた。



昨年、小笠原諸島の海底火山の噴火で大量の軽石が流れ着き、与論島の海岸を灰色に埋め尽くした。漁に出ることができなかつたり、与論島の収入源である観光に重大なダメージを与えていた。



みんなで集めた軽石で1tの袋があつという間にいっぱい。



与論島唯一の養蜂場に到着。すると「今からハチの巣に入ります」という衝撃のアナウンスが…。恐る恐る、何百匹も蜂がついている蜂の巣を指で押すと、蜂蜜がどろっと流れだす。ブンブンと轟く羽音をBGMに、天然の甘みをいただいた。



自由時間はSUPや花火、藍染め体験に
トゥクトゥクまで。与論島の自然と思
いっきり遊んだ。島のことも、仲間の
ことも、すっかり大好きに。





ビーチクリーンの前には、与論島方言バージョンのラジオ体操。島のおばあちゃんの通訳を受けながら、身体を伸ばし、心地よく目が覚める。



海に来た人が拾ったごみを入れるための「拾い箱」。シンプルなものから、派手な絵が描かれているものまで。デザインはそれぞれちがう。お気に入りが見つかったら嬉しい。



「ガザニア」という花の植栽体験。
島の大通りに埋められ、ヨロンマラソンでは大勢の人が走り抜ける。花言葉は『笑顔で答える』。島を離れても、みんなで植えた花が、ランナーに元気を与えてくれるだろう。



有機農業体験。農薬に頼らない栽培はとても難しく、農家さんの中でも1%に満たないそう。「健康や地球環境のためにやっている」と農家さんは力強く話した。



最初は汚れないように作業していた皆も、終わる頃にはどれだけ泥だらけになったか、自慢しあうように。



幻の島『百合ヶ浜』へ。海岸の沖合い約1.5kmにぽっかり浮かび、中潮から大潮の干潮時だけに姿を現す“海上の楽園”。グラスボートにのり、ヨロンブルーの海を進んでいく。

海のだ真ん中。キラキラと光る波。気持ちのいい風が顔にあたる。
これでもかというほど目に入る自然の青はあまりにも現実離れしていた。
水をかけあったり、小さな魚をのぞいたり、背泳ぎで太陽と交信したり。
あの瞬間、この世界にいるのはたった8人だけのようだった。







最終日、
お揃いのTシャツに寄せ書き。
初対面を思い返すと愛おしさが
込み上げてくる。





お別れの時間。あのエントリーボタンには「何かを変えたい」という思いもこめられていたことに気が付く。
誘いあったり、思いを伝えたり、何度もかさねた小さな勇気。自然の中だから見せられた、素直な自分。自分の手でゴミを拾って、植物を耕して、大切にしたいと思った地球のこと。
8人がそれぞれ何かを変えようと努力したから、たった4日間をここまで忘れられない時間にする事ができた。

また、日常にもどる。
だけどそれは行く前とは少し違う、新しい日常。



ゆりこ

(愛知県出身・19歳)

参加したきっかけは？

ボランティアに興味があったこと、そして旅行が大好きな私にとって、この旅するボランティアは応募しない理由がありませんでした！初対面の人達と旅をするってどんな感じなんだろう？とドキドキしながらも、ワクワクが止まりませんでした！また、旅費を負担して頂けるというのも、応募を決意したきっかけの1つです！

この旅で得たこと・変わったこと

私たち人間にとっては小さなゴミでも、小さな海の生き物達にとってはそれが生死に関わるほど多大な問題であることを、実際にその場に行って感じることができました。1人の一歩は小さなものでも、みんなで一歩踏み出せば大きな変化を生み出せるので、たった1つの地球を守るために、出来ることからやってみる事の大切さを学びました！

参加した感想は？

最高に楽しかったです！

初めての場所で、初めて出会った仲間達と共に過ごした時間は、私にとってかけがえのない宝物になりました。

自分の知らないことを沢山知れた気がして嬉しかったのと同じように、もっと色々なことを体験してみたい！と思いました。

応募を迷っている人へ

ボタンを押さなければ出会はずのなかった最高の仲間たちと、最高の場所で最高の経験をすることができます！私も最初は少し不安だったけど、勇気を持って応募してみたて本当に良かった！と心の底から思います！人生の最高の宝物を、是非！その手で掴んでみてください！



参加したきっかけは？

一つ目は、ボランティアに興味があったからです。

私は児童養護施設出身で、施設の仲間から話を聞いているとやはり辛いことも多く、いつか彼らの役に立ちたいと思っていました。将来はここで学んだボランティア経験をもとに、日本や海外の児童養護施設などの施設で暮らす子どもたちに、スポーツに関わるイベントやプレゼントをしたいと思っています。

二つ目は、私は小学校2年生の時に、母親が他界しました。私の家族はよく海に行っており全員海が好きでした。

そんな、海を汚したくないって事を、心の底から思っています。最近では海プラスチックゴミ問題もあり、このままでは、綺麗な海では無くなってしまおうと思いい、そこで今回この、「旅するボランティア」に参加させて頂きました。

少しでも海や、環境を大切にしたいと思う人が増えてくれたら、嬉しいと思い、エントリーさせて頂きました。

かんだ

(茨城県出身・20歳)





この旅で得たこと・変わったこと

遊び目的で海に行った時は「綺麗だなあー」と思っていました。なのであんまり砂浜などをみていませんでした。ですが、ゴミ拾いという目的で海に行くと、「めっちゃ落ちてる！」ってなりました、今まで海に来ていたのに見方を変えるだけでこんなに変わるんだと実感しました。

参加した感想は？

めちゃくちゃ楽しいのと、ものすごく勉強になりました。1日目から4日目まで寝てる時以外の時間が全部楽しかったです。ゴミ拾いも地元の人のお手伝いも全て楽しくて、いろいろ勉強になりました。ゴミがどっから流れてくるかなど、どう生き物に影響を与えてるかなども教えてもらいました。

応募を迷っている人へ

この日は学校とかぶってしまっていたのでとても悩みました。学校の授業もとても大切だとは思いますが、それ以上に大切な事を学べると思います。参加しなきゃ体験できないことが沢山あるので、本当に迷っていたら絶対に参加した方がいいよ！！

参加者の声

新しい刺激や
出会いが欲しかった！

コロナで1回も登校する
こと無く履歴書がスカス
カに。学生時代の思い出
を残したかった。

今回どうして参加したの？

休学中にしたいことが出
来る！と思ったため

綺麗な海が見たかった。

全てが思い出。とにかく
ここでみんなと出会えた
ことに感謝！！！！

地元の方々とお話をしながら
朝海岸清掃をした事。

何が印象的だった？

早朝の海ゴミ拾い。綺麗な
海と美しい波の音を聞きなが
ら浜辺を綺麗にするのは、と
ても気持ちよかったです。

SUPと
トゥクトゥク

ボランティアは人のために見えて、
自分のためにすることだと感じた、
とにかく最高の旅でした。

いろんな人生を歩んできた
同年代の子がいるんだとい
う“人生の勉強”になった。

これから参加する人に
伝えたいことは？

幸せになってほしいと思
える人たちに会えた。

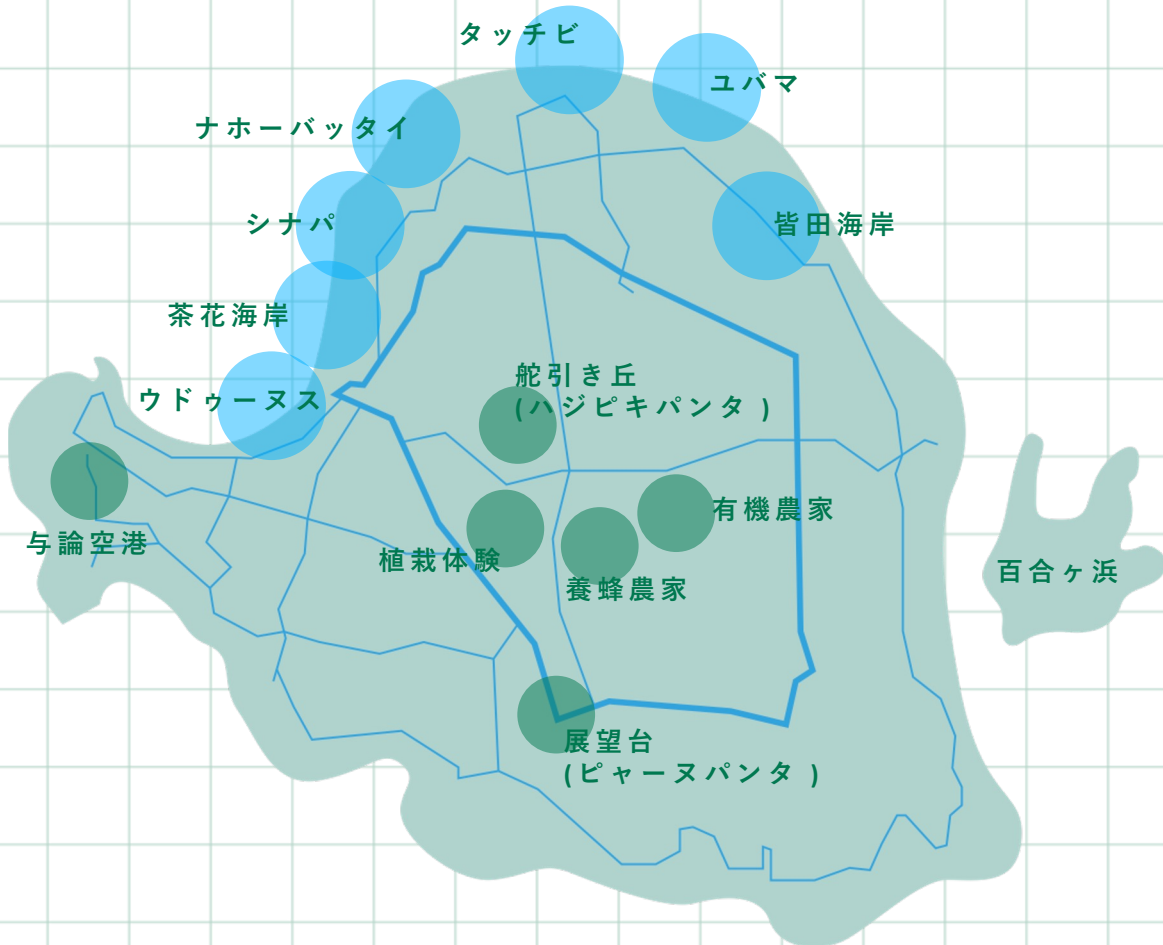
涙あり、笑いあり、
最高の人と出会えて、
今後の人生変わるよ。

養蜂場や農業体験など、
普通の旅行だと絶対にし
ないような経験ができる
ことも魅力。

Map

海岸清掃をしたビーチ

立ち寄りスポット



1km

Kagoshima Yoronjima

Program

Day 1

与論空港到着

島内1周エコツアー

Day 2

朝のビーチクリーン

軽石拾い

養蜂体験

自由時間（SUP、トゥクトゥクなど）

Day 3

朝のビーチクリーン

ガザニアの植栽活動

有機農家訪問

百合ヶ浜グラスボートツアー

自由時間（SUP、藍染め体験など）

Day 4

朝のビーチクリーン

自由時間

与論空港出発



CAUTION
Do not touch the window frame or the window ledge.
The window frame and the window ledge are made of plastic and may be damaged by touching or leaning against them.

WARNING
Do not use the window as a storage space for your luggage or other items.
The window frame and the window ledge are not designed to hold any weight and may be damaged by placing items on them.



旅するボランティア

Report vol.2

鹿児島 与論島

Kagoshima Yoronjima

海と生きる楽園の島をまもる旅.

Photo by Koya Yaeshiro

